

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/11/15号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

CPI上昇でインフレ懸念増加、ゴールド上昇

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



前週のレポートで「マーケットの関心は米国の雇用状況から「インフレの進行」に移りつつあるようです。今週1820ドルをブレイクすることがあればゴールドは新たな価格帯に移る可能性があります。」と書きましたが、まさにそうになりました。その引き金を引いたのは、10日水曜日の米CPIの発表でした。市場予想は前年比5.8~5.9%の上昇の予想でしたが、実際に発表された数字は6.2%とはるかに高い数字。これは30年来最高の数字であり、マーケットはパニックに似た買いがゴールドに入りました。1825ドルから1866ドルまでゴールドは上昇し、RSI（相対力指数）は買いすぎとされる70を超え、一時は1845ドルまで下げましたがその後は週末に向けて再び上昇傾向となり、1860ドル台後半での一週間の終わりになりました。まさに市場の注目点は「インフレ」に移ったと言えるでしょう。このインフレの進行は米国のみならず中国でもPPIが過去26年ぶりの数字、13.5%の伸びとなっており、物価の高騰はもはや世界的な状況となっており、もうtransitoryという言葉はおそらく市場が受け付けられないでしょう。来週はカナダと英国のインフレ指標が発表されます。今まで以上にこれらの数字が注目されます。これらがさらなるインフレを示す数字となれば、さらにゴールドに買いが集まるでしょう。インフレヘッジとしてのゴールドの重要性がこれからますます増していくでしょう。年末へむけて1900ドルへのトライもありえるのではないのでしょうか。ドル建てのゴールドのインフレ要因による堅調さに加えて、ドル金利上昇見込みからのドル高・円安の動きも重なり円建てゴールドは大きく上昇、6800円台と昨年8月の7000円の歴史的な高値に近づきつつあります。新高値へのトライもありえるのではないのでしょうか。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (5)

中央銀行のゴールドの買いもゴールドにとっては大きな需要分野になっています。2021年の予想では420トンと需要全体の中で約9%を占めています。もちろん年によってはネットで売り手になる場合もありますが、過去10年は毎年250トンから650トンの間でのネットの買い手となっています。中央銀行の買いはいわゆる外貨準備の中のゴールドを増やすということになります。過去10年の間の最大の買い手はロシア中央銀行です。昨年2020年はパンデミックの影響で過去3年で最低の量でしたが、それでも525トンという量を買っています。ロシアの外貨準備におけるゴールドの割合は25%を越えて、保有している米ドルの総額を初めて超えました。2020年ゴールドの買いで目立ったのは他にトルコ、インド、UAE、カタールそしてカンボジアでした。ゴールドを外貨準備の中でその割合を増加させるというのは、特に新興国やロシア、中国といった国々にドル資産からゴールドへの動きが目立ちます。

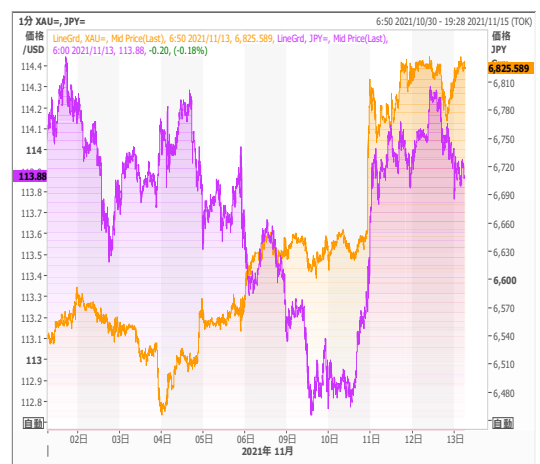
もちろん中央銀行はゴールドを買うだけではありません。当然売りもあります。2020年は例年よりも多くの国々がパンデミックによる経済危機を回避するためにゴールドを売却して資金を得るといふ、まさにいざというときのゴールドの活用法という売却が目立ちました。圧倒的な売りはトルコ。トルコはその経済危機に対応するために90トンのゴールドを2020年9月から11月の間に売却しました。この期間はゴールド価格が史上最高値を記録しており、タイミング的にも利食いとなる売りであったろうと思われます。モンゴル、スリランカ、コロンビアそしてフィリピンなども2010年以来の最大の売却量となりました。それでも、中央銀行のゴールドの売買、ネットでは2020年は250トンの買い越しでした。日本の中央銀行である日本銀行は昨年、造幣局から金貨製造のあまりの81トンのゴールドを買い増して日本のゴールド準備は、初めて大きく増えて846トンとなり、現在世界第9位の量のゴールドを保有していますが、基本的にはゴールドを触らない国であり、残念ながら外貨準備におけるゴールドは3.5%にすぎません。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することによるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

